

【酒造好適米の全体需給の推計】

農林水産省が本年7月に行った「酒造好適米等の需要量調査」の結果をまとめました。より詳細な調査結果の内容は、下記URLよりご参照ください。

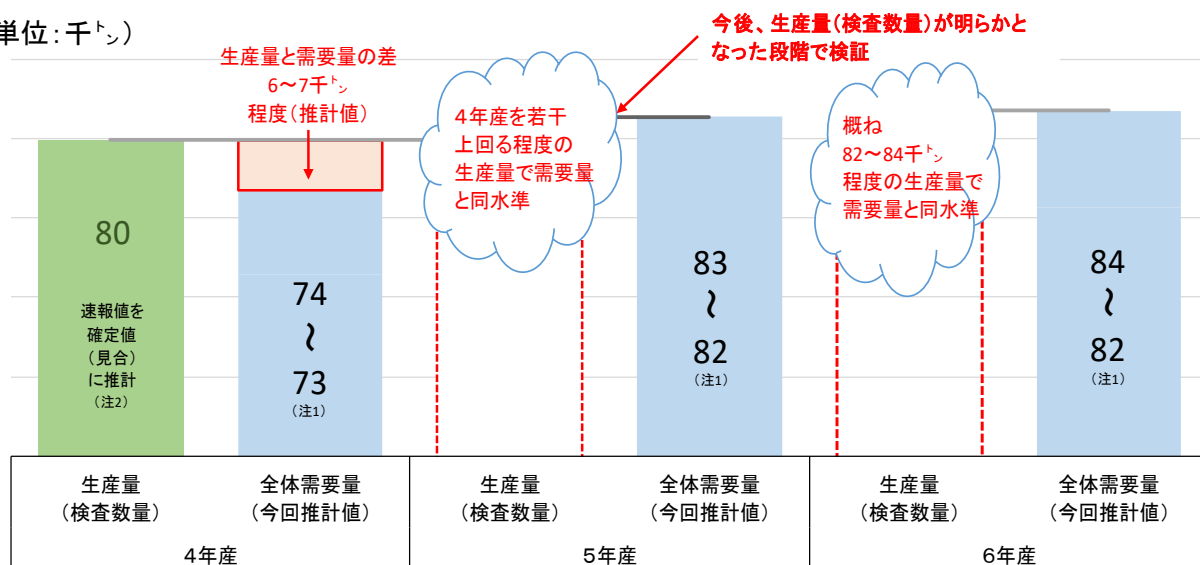
また、令和5年9月28日に「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催したところであり、その概要については、同URLに追って掲載します。

【 https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html 】

- ・ **令和4年産**については、全体需要量（推計値）と生産量を比較すると、**生産量が需要量を6～7千トン程度上回っている**ものと推計されます。
- ・ **令和5年産**については、全体需要量が令和4年産の生産量の**+3千トン程度と増加**しています。
- ・ **令和6年産**については、全体需要量が82～84千トン程度と見込まれる中、各産地においては、**自らの在庫状況、令和5年産の生産及び需要動向等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要**です。
- ・ なお、**令和5年産の需給**については、酒造好適米の検査数量（生産量）が概ね明らかとなる**来年2月に検証し、3月号のマンスリーレポートでお知らせ**します。

酒造好適米(醸造用玄米)の全体需給の状況

(単位:千トン)



酒造好適米の需要に応じた生産に向けて

- ・ 今後とも**日本酒の国内外での円滑な出荷・販売**のためには、原料となる酒造好適米についても**需給均衡を図り、産地と実需者間で安定取引を図っていくことが重要**です。
- ・ 令和6年産の酒造好適米の作付けに当たっては、産地品種銘柄ごとの需要動向等を踏まえ、**需要に応じた生産・販売**を行うほか、**複数年契約の取組の拡大**や**日本酒の輸出拡大**といった**新たな需要動向を踏まえ生産に取り組むことも重要**です。このため、**今後もさらなる生産者と実需者の相互協力、連携が求められます**。

令和5年度酒造好適米等の需要量調査結果の概要

- ・ 昨年に引き続き、酒造好適米の需要量を把握するため、日本酒の酒造メーカーを対象として本年7月に需要量調査を実施。

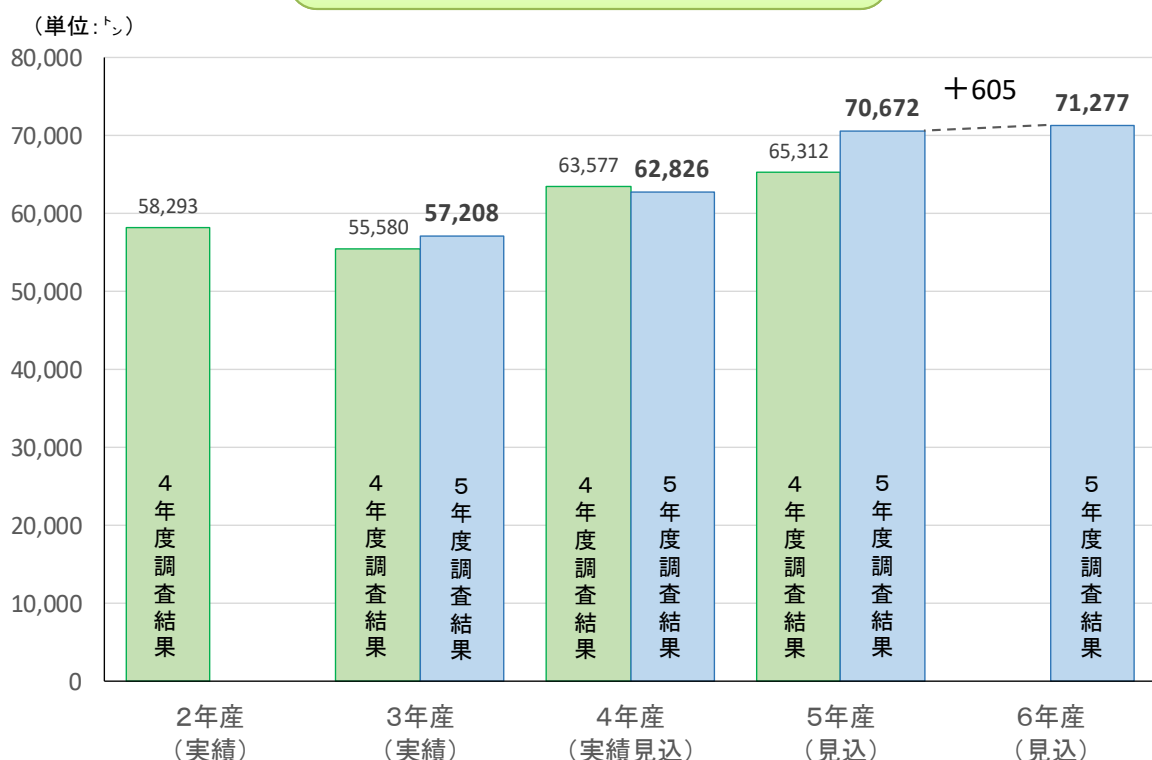
調査の概要

	令和4年度	令和5年度
調査期間	令和4年7月	令和5年7月
調査対象メーカー数	1,389社	1,248社
回答酒造メーカー数	694社	765社
回答率(数量ベース)	82～84%	85～86%

酒造好適米の需要量調査結果

- ・ 今年度の酒造好適米等の需要量調査で回答のあった酒造メーカーの令和6年産酒造好適米の需要見込みは、合計で71千トと令和5年産に比べてやや増加するという結果になりました。
- ・ 令和5年産の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和4年産に比べて+3%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和4年産に比べて+12%となっています。
- ・ 令和6年産の生産に当たって、各産地においては、自らの在庫状況、令和5年産の生産及び需要動向等を踏まえ、生産者と実需者が連携し、令和6年産の作付計画に反映する必要があります。

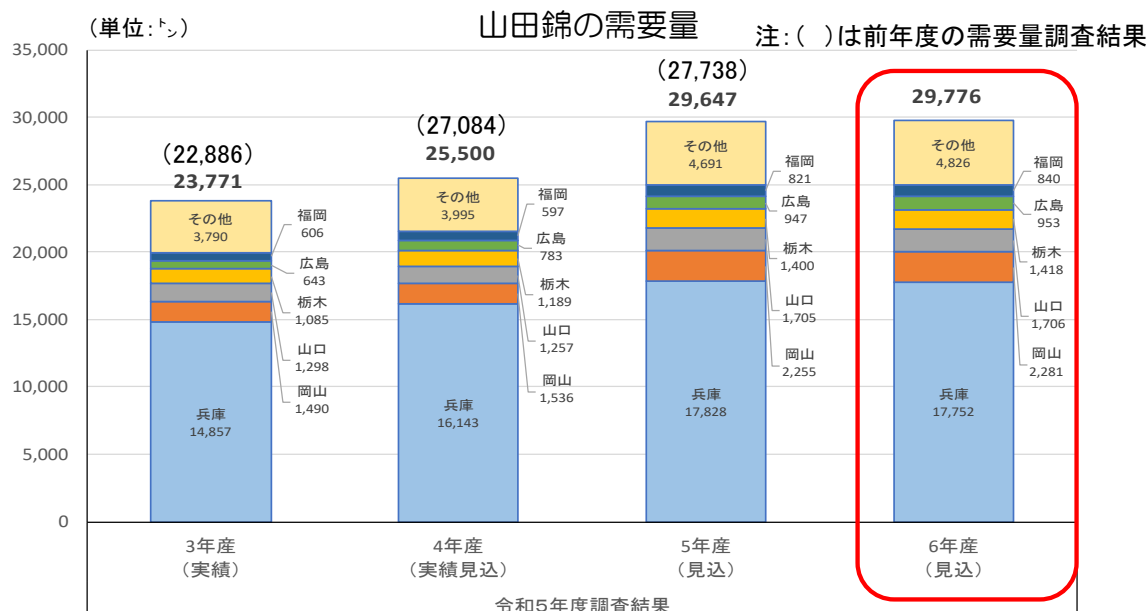
酒造好適米の需要量調査結果



主な酒造好適米の需要量(酒造メーカーからの回答分)

山田錦

- 令和6年産の山田錦の需要量は、令和5年産に比べて±0%と同程度となっています。
- 令和5年産の山田錦の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和4年産に比べて+2%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和4年産に比べて+16%となっています。

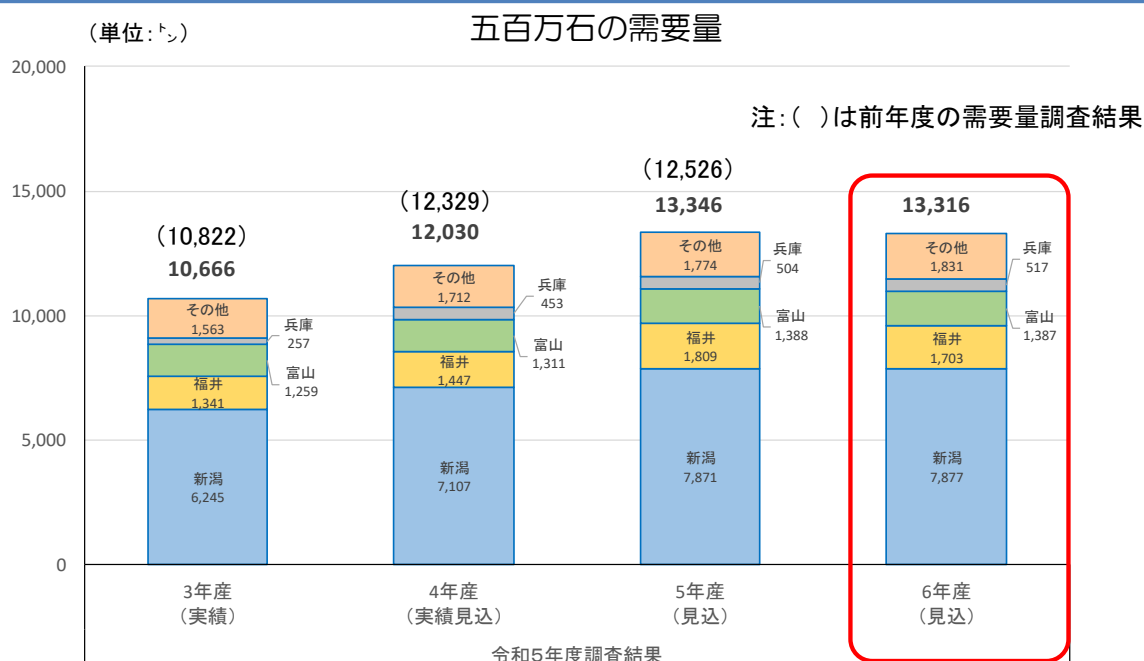


【参考】山田錦の生産量(検査数量)

3年産 27,609 4年産(推計値) 27,948

五百万石

- 令和6年産の五百万石の需要量は、令和5年産に比べて±0%と同程度となっています。
- 令和5年産の五百万石の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和4年産に比べて+2%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和4年産に比べて+11%となっています。



【参考】五百万石の生産量(検査数量)

3年産 13,612 4年産(推計値) 15,271

日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じたところです。
- 令和4年は、日本酒全体としては、前年と同水準で推移しており、一般酒が対前年比▲3%と減少する中、特定名称酒は対前年比+5%と増加しました。また、令和5年1～7月においても、前年と同様の傾向が続いています。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	平成 10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年 (1～7月)	対前年同期比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	566	555	540	533	495	467	419	404	404	201	98%
特定名称酒	291	221	174	164	167	173	178	179	171	165	142	138	145	74	103%
吟醸酒	34	30	20	21	24	25	24	24	23	22	20	19	20	9	96%
純米吟醸酒	25	26	24	29	32	37	42	45	45	45	40	42	46	25	107%
純米酒	62	54	57	58	59	62	65	67	64	62	55	53	55	29	102%
本醸造酒	169	111	73	56	52	49	46	43	38	35	27	24	25	12	102%
一般酒	842	650	485	416	399	382	362	353	324	302	276	266	259	127	96%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和5年は概算値。

注1：日本酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。

2：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しており、令和2年は新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響により減少したものの、令和3年には大幅に回復しました。
- 令和4年においても、輸出量は対前年比+12%と堅調に推移しましたが、令和5年1～7月においては、対前年同期比▲18%と減少しています。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	平成 10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年 (1～7月)	対前年同期比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	32	36	17.2	82%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	9	9	3.7	64%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	7	7	3.9	97%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	1.5	90%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	1.6	92%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	2	4	2.6	119%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	8	10	4.0	72%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。

URL：https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html